

子どもたちをリベンジポルノから 守るために必要な考え方

私的に撮影された元交際相手の性的画像等を嫌がらせのためにインターネット上に流出させる行為をリベンジポルノと呼びます。全国の警察に寄せられたリベンジポルノの相談件数は2023年までに7年連続で増加を続けており、子どもたちが被害に遭うケースもあります。

相談しづらさの解消に向けて

リベンジポルノから身を守るためには、子どもたちに「性的な画像を撮らせない、送らない」と教えることが基本です。しかし、その伝え方に過度に力を入れると、万が一、画像を撮らせてしまったり送ってしまったったりした場合、子どもがその行為に対して強い罪悪感を抱き、誰にも相談できなくなる恐れがあります。リベンジポルノが発生した際は、迅速な対応が被害の拡大を防ぐ重要な手段です。そのため、「性的な画像を撮らせない、送らない」と教えるだけでなく、「もし撮らせてしまったり送ってしまった場合は、すぐに相談してほしい」と伝えることが大切です。



相談を受けたら

リベンジポルノで流出した画像を削除したい場合は、一般社団法人セーフアーインターネット協会が運営する「セーフライン」のホームページを確認してみましょう。セーフラインでは、削除依頼を受け付けるだけでなく、法務局や警察の相談窓口の案内も行っています。

セーフライン（運営：一般社団法人セーフアーインターネット協会）

URL : <https://www.safe-line.jp/against-rvp/>



また、画像をもとに脅迫等を受けている場合は、まず最寄りの警察に相談してください。個人で対応できる範囲には限界がありますので、各相談窓口を積極的に活用しましょう。

家庭での対応

繰り返しになりますが、リベンジポルノや自画撮り被害を防ぐためには、「性的な画像を撮らせない、送らない」という教えが基本です。「性的な画像」という表現が理解しにくい年齢の子どもには、「もしも、自分のからだの写真や動画を誰かに送ってと言われたら、必ず大人に相談してね」というような言葉に置き換え、早い段階で画像や動画を送ることの危険性を伝えましょう。また、リベンジポルノと関連して「一度ネットに広まった画像や動画を完全に消すのは難しい」というインターネットの基本も併せて教えておくことが重要です。